

船越中学校便り

中 研 司

<http://www.funakoshi-j.edu.city.hiroshima.jp/>

全国学力・学習状況調査の結果が出ました

本年4月に実施した「平成20年度全国学力・学習状況調査」の結果概要が出ましたので、本校のものとおわせて報告します。

調査内容

(1) 教科に関する調査 (国語, 算数・数学)

主として知識に関する問題〔A問題〕

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

主として活用に関する問題〔B問題〕

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

各教科の平均正答率

【中学校】

国語				数学											
A問題			B問題	A問題				B問題							
国	県	市	本校	国	県	市	本校	国	県	市	本校	国	県	市	本校
73.6	74.1	73.9	75.3	60.8	60.9	60.2	64.9	63.1	64.1	63.8	61.7	49.2	48.7	47.7	47.4

各教科の調査結果の概要

国語 A

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	本校
話すこと・聞くこと	80.1	79.2	80.0
書くこと	55.2	53.8	50.0
読むこと	71.0	71.7	76.2
言語事項	75.2	75.8	76.3

国語 B

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	本校
話すこと・聞くこと	-	-	-
書くこと	46.7	46.4	51.3
読むこと	60.8	60.2	64.9
言語事項	60.5	60.4	73.1

定着状況

知識面では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項」は定着しているが、論理の展開に着目して「書くこと」は不十分。
「言語事項」中、辞書を活用し、意味を正しく捉えることに課題がある。

活用面でも、「書くこと」に関連した設問の正答率が低い。

課題

「書くこと」に関連する力、記述で答える力の育成。

慣用句など、文脈の中で語句の意味を正しくつかむ力の育成。

数学 A

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	本校
数と式	68.0	68.8	65.4
図形	62.7	63.7	60.5
数量関係	58.6	58.8	59.3

数学 B

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	本校
数と式	54.2	52.8	52.1
図形	57.6	56.4	55.1
数量関係	44.7	43.2	43.2

定着状況

基本的な知識・技能が全国平均を下回って要る。特に、図形領域や文字式を用いた立式において定着が不十分である。

活用面でも、全ての領域において平均正答率が下回っている。

特に、説明を要する回答の正答率が低い傾向がある。

課題

「数と式」の領域、具体的な事象を式で表現する力の定着、数量や図形に関する知識・理解の定着。

式の意味や自分の考え、解答に至る考え方などを数学的に論理立てて説明する力の育成。